



上

或時故小團治丈一婦出幕小狂言の狂玉也

事あり 開岐の爲に云々 河竹氏が筆跡より
 出るといふと 看官ハ小團治丈が意井より 出るといふと
 出るといふと 已小師翁が妙案に田舎源氏に先氏と
 以名ハ三歳兒もあり 柳亭にも 種彦にも 佐名を
 唯の關の扉に 佐者はおさ哉共思ぬ 出雲が健也
 九太夫の様の下 ぬるちううりも 人々憂はつと 述懐と獨り
 嘆トて 水無月 佐行佐もに ねのどー

柳子種善




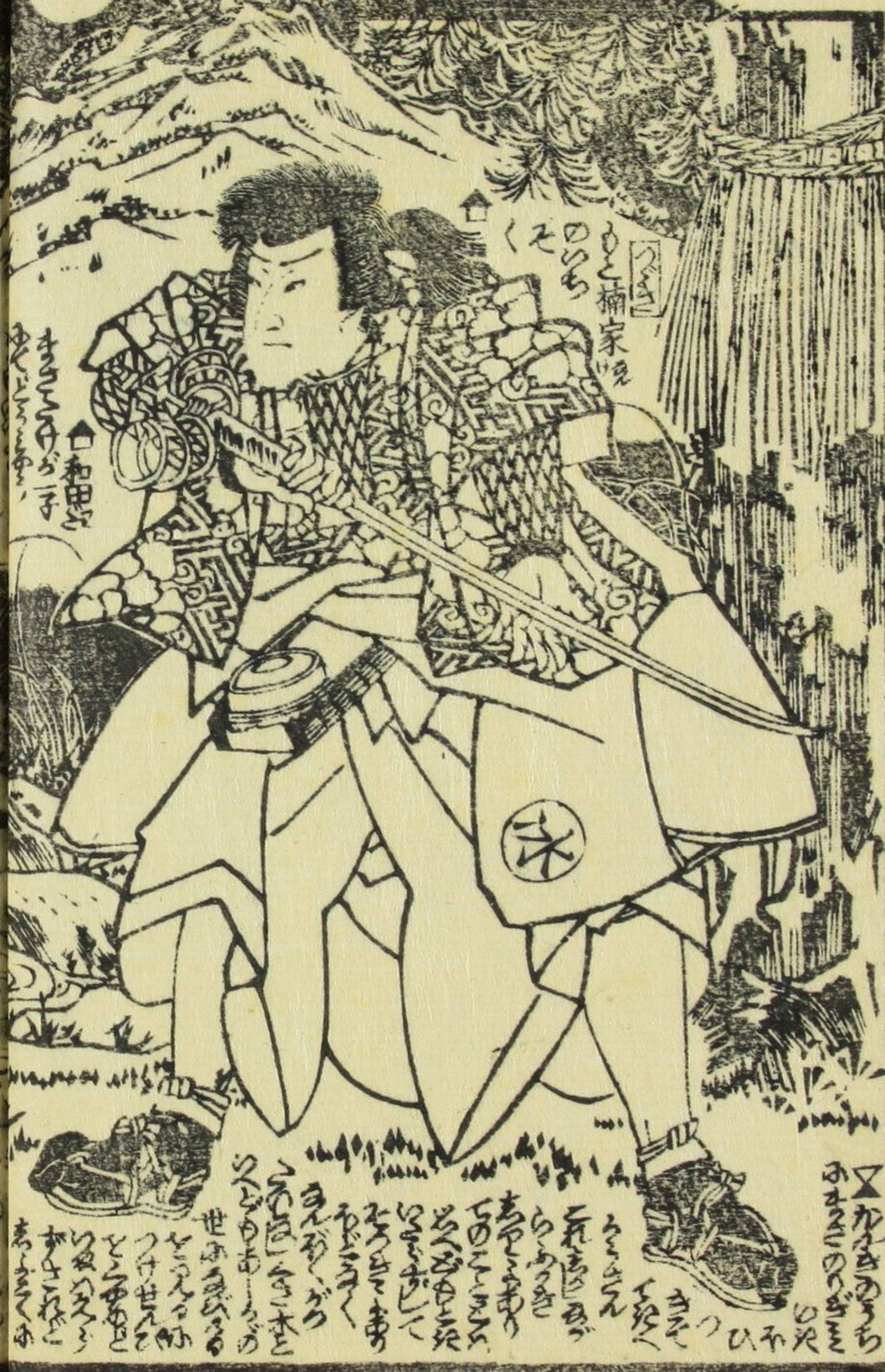


A black and white woodblock print illustration of a man in a kimono. The man is shown from the waist up, facing slightly to the left. He has a serious expression. His kimono is light-colored with a large, dark circular motif on the lower right side containing the Japanese character for 'ice' (氷). He is standing in a garden setting. To his right is a bamboo fence (fence). In the background, there are flowering plants, possibly cherry blossoms, and a traditional Japanese building with a tiled roof. The style is characteristic of Edo-period Japanese art.

[illegible]

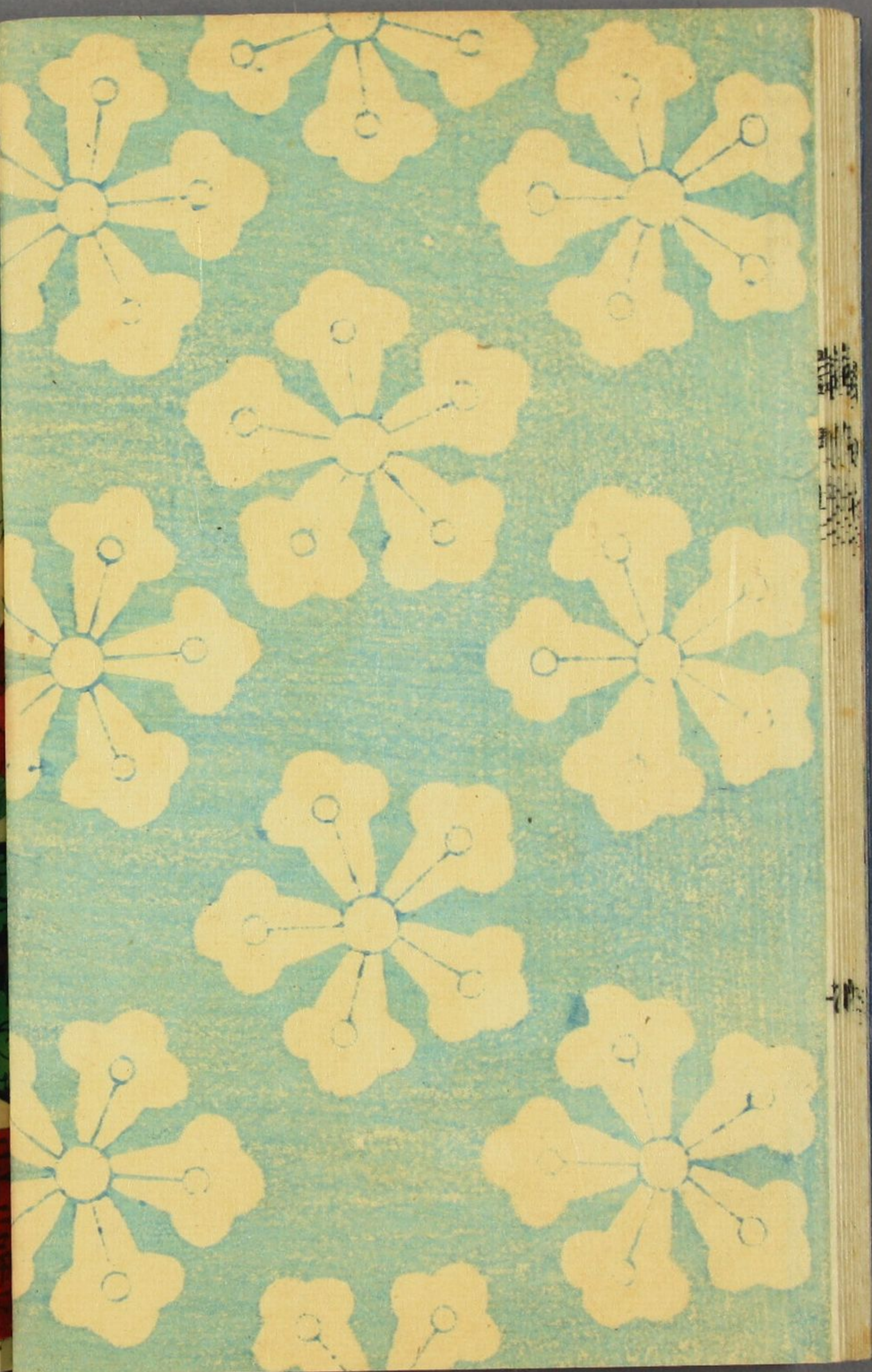
A black and white woodblock print illustration of a woman in traditional Japanese attire. She is wearing a kimono with a large, patterned obi. She is holding a long, thin object, possibly a sword or a staff, and looking towards the right. The background features a bamboo fence and a body of water.

へなく手
 のめ
 らる
 はらぬの
 ぬきや
 まゝのめ
 せよま
 うさう
 しりあれ
 ちんねと
 の正衣
 こころ
 小いさ
 うち

☒ 川登
☒ とう
☒ 金
☒ くら
☒ ちん
☒ ちん



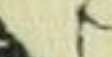
華田廿二

九



室田廿二

① あつちき
ひひんいけ
ふとろりと
おとろりせ
あつちき
あつちき
ふとろり
てのあん
どうろり
お



あしきさうき
いふさうき
ぶんぶん
うちあやむ
あしきさうきと

あまのうみ
まぐさ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ

A drawing of a hand holding a pen or brush, positioned at the top center of the page.

そのひす
あまのうろ
かたきふ
けり
もつじ
ひめ
Mum
さぬ
うの
あん
うこ
の
あい
いざと
いづみれ
つらゆめ
おとうき
丑一うの
あんかご
あかせし
ところんご
らんげん
せきじょう
ていぢちむ
あがきこ
ああいうち



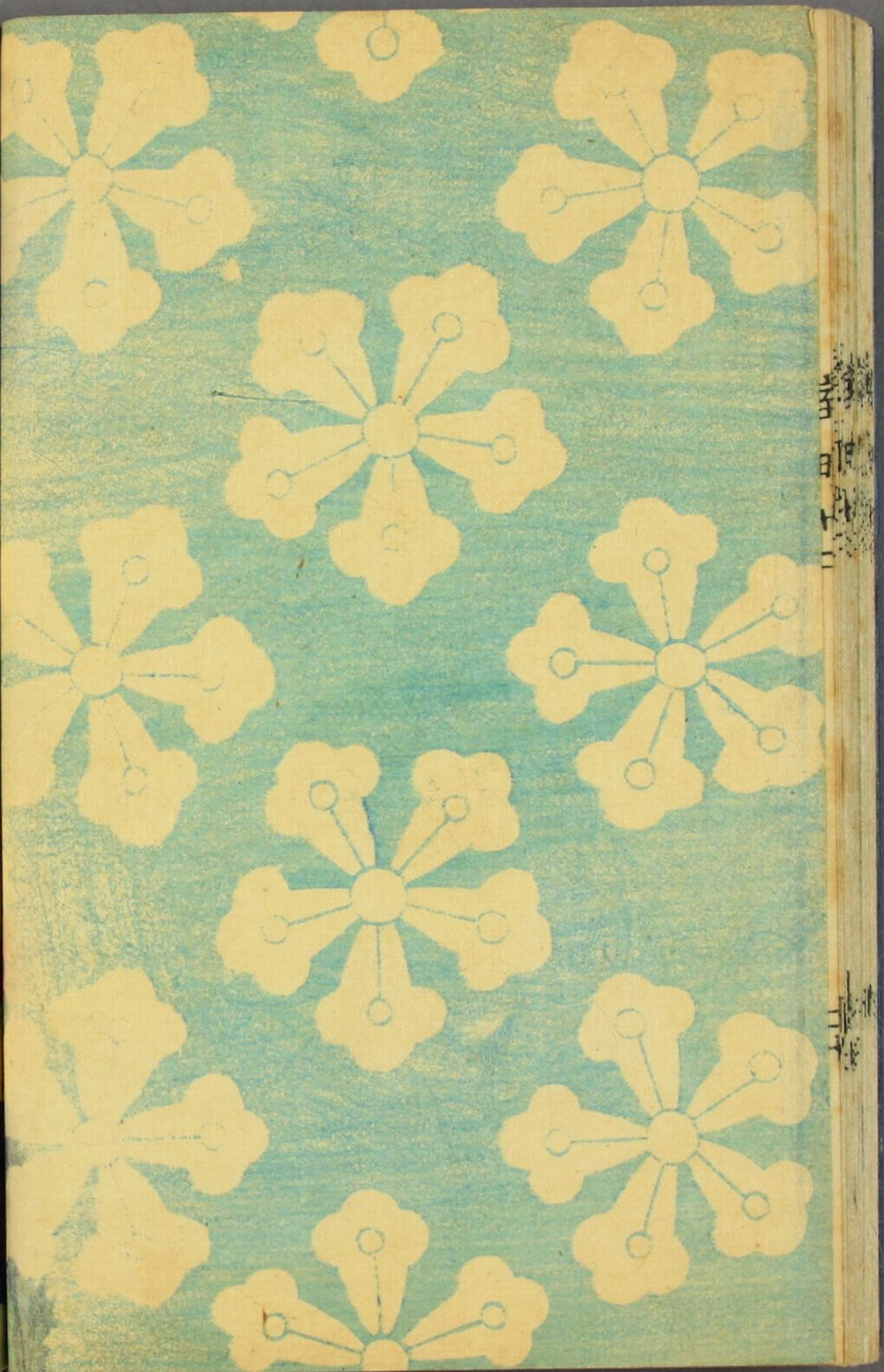


是のて
 ひろく
 つまゝに
 たよりなく
 まゝに
 まゝに
 ひろく
 あひま
 まゝに
 まゝに

室
乃
滿
記



二十三



室乃滿記

上

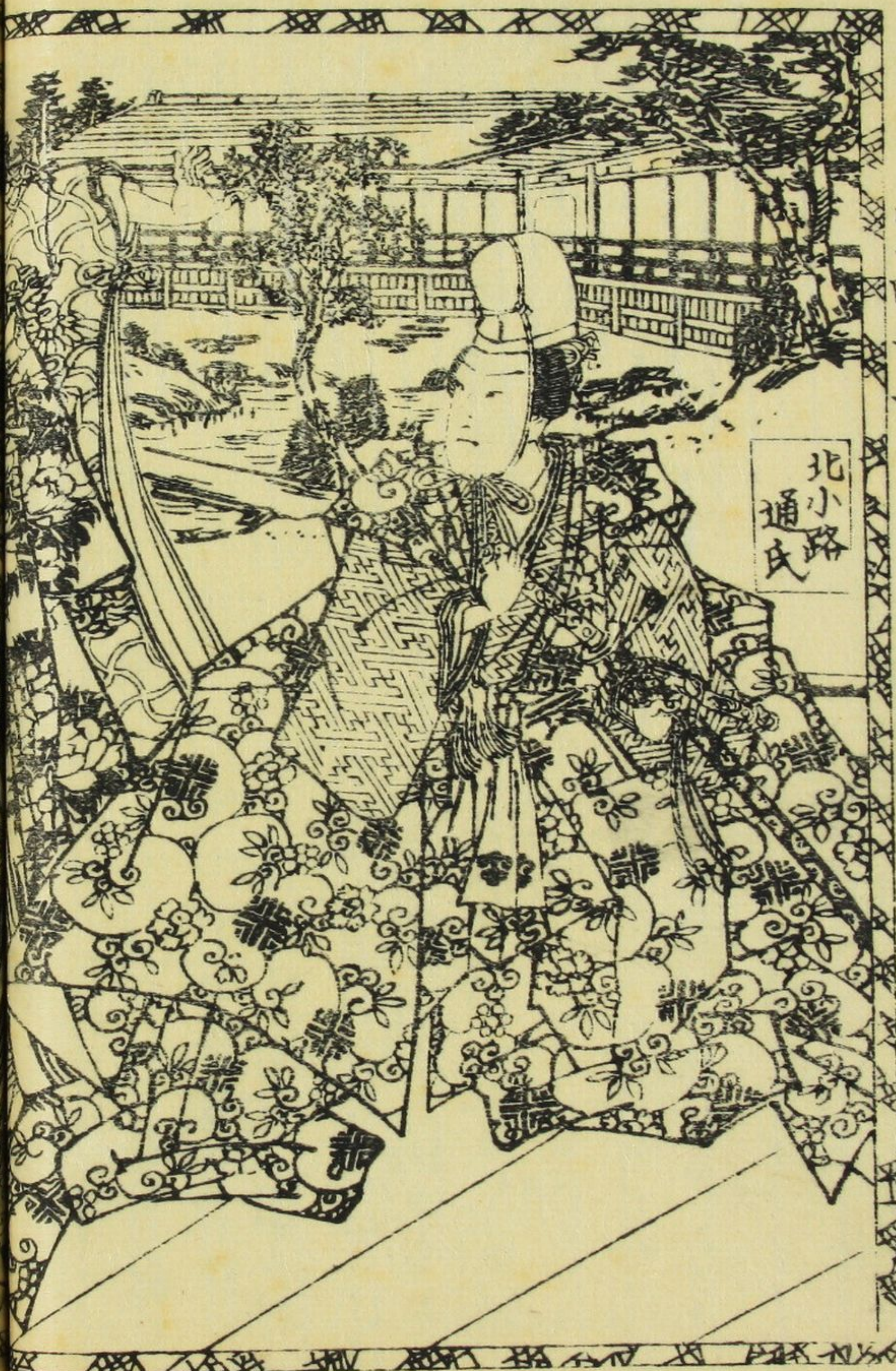
孔氏文庫

結せ馴る。髪結の根締の二合櫛取迄斯せの者官の意の
 脇ふ。手小馴腹ふ加減をまゝとて上手とて。丁寧とも賞しとて
 愛顧を得ふ至とて。尙此仁の他行して一日代の入事あるは櫛
 痛剃刀の前かざる。その大聶开も此編の御馴染の暖簾かつけ
 三ッ彦の花押年經。柳床文章匠の綿密家耳う。鼻の穴
 迄も微細に綴る。愉快の中。言も盡も。然のあれども
 文宗の過。七月十六日閻魔の聴場へ趣け。未だ剃刀も
 附焼刃の僕ふ次編とて。梓えの勸め。櫛の齒も立ぬ。竟漏
 鬚の曲形先人名前。御機嫌を取結び。も十袋足らぬ。ど
 是迄脚史の散。髪をう。結局期み至りて。編著が異る。ハ
 無。御氣味悪も御許ありて。手筈の底へ投込ふ。給ふ。とて
 ぬ。う。めん

い。る。有。人。記

以爲有人託

北小路
通氏



偽花園
秋津



廣沼
信濃



ついでに「る老」のゆゑ
あはれんのものである
ゆゑに上中下を
あらんまんぢふとすうの

●うのげんとく
うんけいそとく
いのちのちから
うのげんそとく

de Smedt
de Smedt
de Smedt
de Smedt

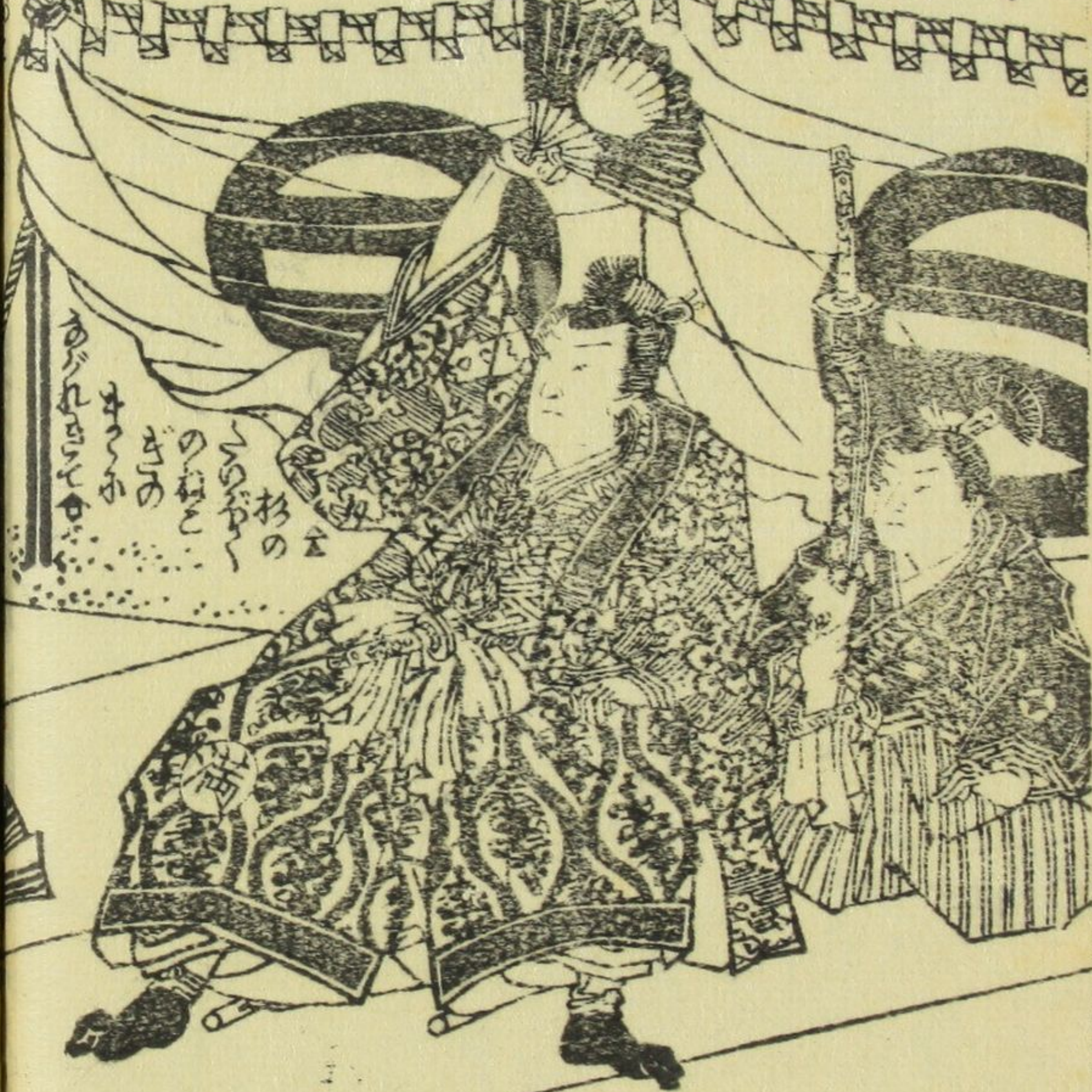
せう一わふ
 りふりゅうでわこ
 うせふじあぢめい
 あふこふせうやめ

[illegible][illegible][illegible]

小さきさうれ
 さいてその
 るあうとー
 るんがわの
 こんけのそ
 とさうじし
 蜀の劉備さ
 かさめーめ
 るひこのかめ
 川をさへてえん
 おくびとうがーの
 まわんふせよ馬ひけ
 甲つこのさうへびのさだ
 ひろねまふまうふあさざん
 甲つうろくこはがさうま

[illegible]

あづれらて合

[illegible][illegible]





